

漢文「故事成語」100題ドリル

対象：高校生・大学受験生 | 著作権：誰でも古典塾 (kotennosensei.com) 無断転載禁止

はじめに

漢文の名著から生まれた**故事成語**は、入試（漢文・現代文・小論文）でも日常でも頻出です。**意味・由来・出典**を四択で確かめましょう。意味と「もとになった話」をセットで覚えるのが定着のコツです。

観点	問われ方
意味	その成語が表す意味は何か
由来	もとになった故事（話の中身）はどれか
故事成語	意味から成語を当てる
出典	もとの書物（史記・戦国策・韓非子・孟子など）

覚え方…意味だけでなく「どんな話から生まれたか」をイメージで結びつけると忘れにくい。出典は『史記』『戦国策』『韓非子』『孟子』『論語』など、歴史書・思想書が中心です。

採点表

部	問題	目標
第1部	Q1～Q25	20/25
第2部	Q26～Q50	19/25
第3部	Q51～Q75	18/25
第4部	Q76～Q100	17/25

【第1部】（Q1～Q25）

意味 Q1. 「矛盾（むじゅん）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア つじつまが合わないこと

イ 目的を遂げるため、長い間つらい苦勞を耐え忍ぶこと

ウ 失敗すれば後がない、決死の覚悟でのぞむこと

エ 物事を完成させる、最後の大切な仕上げ

▶ 答え：ア 「矛盾」はつじつまが合わないこと。由来：どんな盾も貫く矛と、どんな矛も防ぐ盾を売る者が、両者を問われて答えられなかった話（出典：韓非子）。

意味 Q2. 「蛇足（だそく）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 目先の違いにこだわり、結果が同じだと気づかないこと

イ あっても無駄な、余計な付け足し

ウ 大きな団体の末端より、小さな団体の長になるほうがよいこと

エ 負け惜しみが強く、こじつけて言い逃れること

▶ 答え：イ 「蛇足」はあっても無駄な、余計な付け足し。由来：蛇の絵を早く描く競争で、先に描けた者が足まで描き足してかえって負けた話（出典：戦国策）。

意味 Q3. 「五十歩百歩（ごじっぽひゃっぽ）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 人生の幸不幸は予測できないということ

イ 仲の悪い者同士が同じ場に居合わせること。また協力すること

ウ 多少の違いはあっても本質的には同じであること

エ 他人のよくない言動も、自分をみがく助けになること

▶ 答え：ウ 「五十歩百歩」は多少の違いはあっても本質的には同じであること。由来：戦場で五十歩逃げた者が百歩逃げた者を笑うが、逃げた点では同じだという話（出典：孟子）。

意味 Q4. 「漁夫の利（ぎよふのり）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 苦勞して学問にはげみ、その成果を得ること

イ 多くのものの中で、最もすぐれた人や物

ウ 昔のことをよく学んで、新しい知識や見方を得ること

エ 両者が争う間に、第三者が勞せず利益を得ること

▶ 答え：エ 「漁夫の利」は両者が争う間に、第三者が勞せず利益を得ること。由来：鵜（しぎ）と蚌（どぶがい）が争う際に、漁師が両方とも捕らえた話（出典：戦国策）。

意味 **Q5.** 「推敲（すいこう）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 詩や文章の字句を何度も練り直すこと

イ よけいな手助けをして、かえって害すること

ウ そこを通れば立身出世できる関門のこと

エ いつまでも進歩のない人のこと

▶ 答え：ア 「推敲」は詩や文章の字句を何度も練り直すこと。由来：詩人が「推す」と「敲く」のどちらの字にするか迷った話（出典：唐詩紀事）。

意味 **Q6.** 「杞憂（きゆう）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 古い習慣にこだわり、融通がきかないこと

イ 無用な心配。とりこし苦労

ウ 他人の権勢をかさに着て、いばること

エ はらわたがちぎれるほどの、つらく悲しい思い

▶ 答え：イ 「杞憂」は無用な心配。とりこし苦労。由来：杞の国の人が、天が落ちてこないかと心配した話（出典：列子）。

意味 **Q7.** 「四面楚歌（しめんそか）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 欠点がなく完全なこと。また、無事にやりとげること

イ 一度してしまったことは、取り返しがつかないこと

ウ 周囲がすべて敵で、孤立すること

エ 技巧のあとがなく自然で完全なこと。飾り気がなく純真なこと

▶ 答え：ウ 「四面楚歌」は周囲がすべて敵で、孤立すること。由来：項羽が四方の漢軍から楚の歌を聞き、楚が降ったと悟った話（出典：史記）。

意味 **Q8.** 「臥薪嘗胆（がしんしょうたん）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 失敗すれば後がない、決死の覚悟でのぞむこと

イ 物事を完成させる、最後の大切な仕上げ

ウ 離れられない、きわめて親密な交わり

エ 目的を遂げるため、長い間つらい苦勞を耐え忍ぶこと

▶ 答え：エ 「臥薪嘗胆」は目的を遂げるため、長い間つらい苦勞を耐え忍ぶこと。由来：薪の上に寝、苦い胆をなめて、敗北の雪辱を期した話（出典：史記）。

意味 Q9. 「朝三暮四（ちょうさんぼし）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 目先の違いにこだわり、結果が同じだと気づかないこと

イ 大きな団体の末端より、小さな団体の長になるほうがよいこと

ウ 負け惜しみが強く、こじつけて言い逃れること

エ 物事は手近で基本的な所から、順を追って進めるべきこと

▶ 答え：ア 「朝三暮四」は目先の違いにこだわり、結果が同じだと気づかないこと。由来：猿に木の実を「朝三つ暮れ四つ」から「朝四つ暮れ三つ」にすると喜んだ話（出典：列子）。

意味 Q10. 「塞翁が馬（さいおうがうま）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 仲の悪い者同士が同じ場に居合わせること。また協力すること

イ 人生の幸不幸は予測できないということ

ウ 他人のよくない言動も、自分をみがく助けになること

エ つじつまが合わないこと

▶ 答え：イ 「塞翁が馬」は人生の幸不幸は予測できないということ。由来：辺境の老人の馬が逃げたが後に良馬を連れ帰るなど、幸不幸が転じ続けた話（出典：淮南子）。

意味 Q11. 「螢雪の功（けいせつのこう）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 多くのものの中で、最もすぐれた人や物

イ 昔のことをよく学んで、新しい知識や見方を得ること

ウ 苦勞して学問にはげみ、その成果を得ること

エ あっても無駄な、余計な付け足し

▶ 答え：ウ 「螢雪の功」は苦勞して学問にはげみ、その成果を得ること。由来：貧しくて灯油が買えず、螢の光や雪明かりで書物を読んで学んだ話（出典：晋書）。

意味 Q12. 「助長（じょちょう）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア そこを通れば立身出世できる関門のこと

イ いつまでも進歩のない人のこと

ウ 多少の違いはあっても本質的には同じであること

エ よけいな手助けをして、かえって害すること

▶ 答え：エ 「助長」はよけいな手助けをして、かえって害すること。由来：苗の生長を助けようと引っ張り上げ、枯らしてしまった話（出典：孟子）。

意味 Q13. 「守株（しゅしゅ）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 古い習慣にこだわり、融通がきかないこと

イ 他人の権勢をかさに着て、いばること

ウ はらわたがちぎれるほどの、つらく悲しい思い

エ 両者が争う間に、第三者が労せず利益を得ること

▶ 答え：ア 「守株」は古い習慣にこだわり、融通がきかないこと。由来：切り株にぶつかった兔をまた得ようと、株を見張り続けた話（出典：韓非子）。

意味 Q14. 「完璧（かんぺき）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 一度してしまったことは、取り返しがつかないこと

イ 欠点がなく完全なこと。また、無事にやりとげること

ウ 技巧のあとがなく自然で完全なこと。飾り気がなく純真なこと

エ 詩や文章の字句を何度も練り直すこと

▶ 答え：イ 「完璧」は欠点がなく完全なこと。また、無事にやりとげること。由来：藺相如が、傷一つつけず璧（玉）を趙の国へ持ち帰った話（出典：史記）。

意味 Q15. 「背水の陣（はいすいのじん）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 物事を完成させる、最後の大切な仕上げ

イ 離れられない、きわめて親密な交わり

ウ 失敗すれば後がない、決死の覚悟でのぞむこと

エ 無用な心配。とりこし苦労

▶ 答え：ウ 「背水の陣」は失敗すれば後がない、決死の覚悟でのぞむこと。由来：韓信が川を背に陣を敷き、退路を断って戦い勝った話（出典：史記）。

意味 Q16. 「鶏口牛後（けいこうぎゅうご）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 負け惜しみが強く、こじつけて言い逃れること

イ 物事は手近で基本的な所から、順を追って進めるべきこと

ウ 周囲がすべて敵で、孤立すること

エ 大きな団体の末端より、小さな団体の長になるほうがよいこと

▶ 答え：エ 「鶏口牛後」は大きな団体の末端より、小さな団体の長になるほうがよいこと。由来：「鶏口と為るも牛後と為る無かれ」という言葉から（出典：戦国策）。

意味 Q17. 「呉越同舟（ごえつどうしゅう）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 仲の悪い者同士が同じ場に居合わせること。また協力すること

イ 他人のよくない言動も、自分をみがく助けになること

ウ つじつまが合わないこと

エ 目的を遂げるため、長い間つらい苦勞を耐え忍ぶこと

▶ 答え：ア 「呉越同舟」は仲の悪い者同士が同じ場に居合わせること。また協力すること。由来：敵国の呉と越の人が同じ舟に乗り合わせ、嵐では助け合うという話（出典：孫子）。

意味 Q18. 「白眉（はくび）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 昔のことをよく学んで、新しい知識や見方を得ること

イ 多くのものの中で、最もすぐれた人や物

ウ あっても無駄な、余計な付け足し

エ 目先の違いにこだわり、結果が同じだと気づかないこと

▶ 答え：イ 「白眉」は多くのものの中で、最もすぐれた人や物。由来：馬氏の五兄弟のうち、眉に白毛のある長兄が最も優れていた話（出典：蜀志）。

意味 Q19. 「登竜門（とうりゅうもん）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア いつまでも進歩のない人のこと

イ 多少の違いはあっても本質的には同じであること

ウ そこを通れば立身出世できる関門のこと

エ 人生の幸不幸は予測できないということ

▶ 答え：ウ 「登竜門」はそこを通れば立身出世できる関門のこと。由来：黄河の急流「竜門」を登りきった鯉は竜になるといふ言い伝え（出典：後漢書）。

意味 Q20. 「虎の威を借る狐（とらのいをかきつね）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア はらわたがちぎれるほどの、つらく悲しい思い

イ 両者が争う間に、第三者が労せず利益を得ること

ウ 苦勞して学問にはげみ、その成果を得ること

エ 他人の権勢をかさに着て、いばること

▶ 答え：エ 「虎の威を借る狐」は他人の権勢をかさに着て、いばること。由来：狐が「自分は天帝の使い」と言い、虎を後ろに従えて獣を恐れさせた話（出典：戦国策）。

意味 Q21. 「覆水盆に返らず（ふくすいぼんにかえらず）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 一度してしまったことは、取り返しがつかないこと

イ 技巧のあとがなく自然で完全なこと。飾り気がなく純真なこと

ウ 詩や文章の字句を何度も練り直すこと

エ よけいな手助けをして、かえって害すること

▶ 答え：ア 「覆水盆に返らず」は一度してしまったことは、取り返しがつかないこと。由来：離縁した妻が復縁を求めたが、こぼした水は盆に戻らないと断られた話（出典：拾遺記）。

意味 Q22. 「画竜点睛（がりょうてんせい）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 離れられない、きわめて親密な交わり

イ 物事を完成させる、最後の大切な仕上げ

ウ 無用な心配。とりこし苦勞

エ 古い習慣にこだわり、融通がきかないこと

▶ 答え：イ 「画竜点睛」は物事を完成させる、最後の大切な仕上げ。由来：竜の絵にひとみを描き入れると、竜が天に昇ったという話（出典：歴代名画記）。

意味 Q23. 「漱石枕流（そうせきちんりゅう）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 物事は手近で基本的な所から、順を追って進めるべきこと

イ 周囲がすべて敵で、孤立すること

ウ 負け惜しみが強く、こじつけて言い逃れること

エ 欠点がなく完全なこと。また、無事にやりとげること

▶ 答え：ウ 「漱石枕流」は負け惜しみが強く、こじつけて言い逃れること。由来：「石に漱ぎ流れに枕す」の言い間違いを、強引に弁解した話（出典：晋書）。

意味 Q24. 「他山の石（たざんのいし）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア つじつまが合わないこと

イ 目的を遂げるため、長い間つらい苦勞を耐え忍ぶこと

ウ 失敗すれば後がない、決死の覚悟でのぞむこと

エ 他人のよくない言動も、自分をみがく助けになること

▶ 答え：エ 「他山の石」は他人のよくない言動も、自分をみがく助けになること。由来：「他山の石、以て玉を攻（みが）くべし」という詩句から（出典：詩経）。

意味 Q25. 「温故知新（おんこちしん）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 昔のことをよく学んで、新しい知識や見方を得ること

イ あっても無駄な、余計な付け足し

ウ 目先の違いにこだわり、結果が同じだと気づかないこと

エ 大きな団体の末端より、小さな団体の長になるほうがよいこと

▶ 答え：ア 「温故知新」は昔のことをよく学んで、新しい知識や見方を得ること。由来：「故きを温ねて新しきを知る」という孔子の言葉から（出典：論語）。

意味 Q26. 「呉下の阿蒙（ごかのあもう）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 多少の違いはあっても本質的には同じであること

イ いつまでも進歩のない人のこと

ウ 人生の幸不幸は予測できないということ

エ 仲の悪い者同士が同じ場に居合わせる。また協力すること

▶ 答え：イ 「呉下の阿蒙」はいつまでも進歩のない人のこと。由来：学問をしない呂蒙を評した語。後に大成し「呉下の阿蒙に非ず」と驚かれた（出典：三国志）。

意味 Q27. 「断腸の思い（だんちょうのおもい）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 両者が争う間に、第三者が労せず利益を得ること

イ 苦勞して学問にはげみ、その成果を得ること

ウ はらわたがちぎれるほどの、つらく悲しい思い

エ 多くのものの中で、最もすぐれた人や物

▶ 答え：ウ 「断腸の思い」ははらわたがちぎれるほどの、つらく悲しい思い。由来：子を捕らえられた母猿が、悲しみのあまり腸が切れて死んでいた話（出典：世説新語）。

意味 Q28. 「天衣無縫（てんいむほう）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 詩や文章の字句を何度も練り直すこと

イ よけいな手助けをして、かえって害すること

ウ そこを通れば立身出世できる関門のこと

エ 技巧のあとがなく自然で完全なこと。飾り気がなく純真なこと

▶ 答え：エ 「天衣無縫」は技巧のあとがなく自然で完全なこと。飾り気がなく純真なこと。由来：天人の衣には縫い目がないという話（出典：靈怪録）。

意味 Q29. 「水魚の交わり（すいぎよのまじわり）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 離れられない、きわめて親密な交わり

イ 無用な心配。とりこし苦勞

ウ 古い習慣にこだわり、融通がきかないこと

エ 他人の権勢をかさに着て、いばること

▶ 答え：ア 「水魚の交わり」は離れられない、きわめて親密な交わり。由来：劉備が、諸葛亮との関係を「水と魚」にたとえた話（出典：三国志）。

意味 **Q30.** 「登高自卑（とうこうじひ）」の意味として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 周囲がすべて敵で、孤立すること

イ 物事は手近で基本的な所から、順を追って進めるべきこと

ウ 欠点がなく完全なこと。また、無事にやりとげること

エ 一度してしまったことは、取り返しがつかないこと

▶ 答え：イ 「登高自卑」は物事は手近で基本的な所から、順を追って進めるべきこと。由来：高い所へ登るにも、必ず低い所から始めるという教え（出典：礼記）。

故事成語 **Q31.** 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「つじつまが合わないこと」

ア 臥薪嘗胆

イ 背水の陣

ウ 矛盾

エ 画竜点睛

▶ 答え：ウ この意味を表すのは「矛盾（むじゅん）」。どんな盾も貫く矛と、どんな矛も防ぐ盾を売る者が、両者を問われて答えられなかった話（韓非子）。

故事成語 **Q32.** 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「あっても無駄な、余計な付け足し」

ア 朝三暮四

イ 鶏口牛後

ウ 漱石枕流

エ 蛇足

▶ 答え：エ この意味を表すのは「蛇足（だそく）」。蛇の絵を早く描く競争で、先に描けた者が足まで描き足してかえって負けた話（戦国策）。

故事成語 **Q33.** 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「多少の違いはあっても本質的には同じであること」

ア 五十歩百歩

イ 塞翁が馬

ウ 呉越同舟

エ 他山の石

▶ 答え：ア この意味を表すのは「五十歩百歩（ごじっぽひゃっぽ）」。戦場で五十歩逃げた者が百歩逃げた者を笑うが、逃げた点では同じだという話（孟子）。

故事成語 Q34. 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「両者が争う間に、第三者が労せず利益を得ること」

ア 螢雪の功

イ 漁夫の利

ウ 白眉

エ 温故知新

▶ 答え：イ この意味を表すのは「漁夫の利（ぎよふのり）」。鵜（しぎ）と蚌（どぶがい）が争う際に、漁師が両方とも捕らえた話（戦国策）。

故事成語 Q35. 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「詩や文章の字句を何度も練り直すこと」

ア 助長

イ 登竜門

ウ 推敲

エ 呉下の阿蒙

▶ 答え：ウ この意味を表すのは「推敲（すいこう）」。詩人が「推す」と「敲く」のどちらの字にするか迷った話（唐詩紀事）。

故事成語 Q36.

次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「無用な心配。とりこし苦労」

ア 守株

イ 虎の威を借る狐

ウ 断腸の思い

エ 杞憂

▶ 答え：エ この意味を表すのは「杞憂（きゆう）」。杞の国の人が、天が落ちてこないかと心配した話（列子）。

故事成語 Q37. 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「周囲がすべて敵で、孤立すること」

ア 四面楚歌

イ 完璧

ウ 覆水盆に返らず

エ 天衣無縫

▶ 答え：ア この意味を表すのは「四面楚歌（しめんそか）」。項羽が四方の漢軍から楚の歌を聞き、楚が降ったと悟った話（史記）。

故事成語 Q38. 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「目的を遂げるため、長い間つらい苦勞を耐え忍ぶこと」

ア 背水の陣

イ 臥薪嘗胆

ウ 画竜点睛

エ 水魚の交わり

▶ 答え：イ この意味を表すのは「臥薪嘗胆（がしんしょうたん）」。薪の上に寝、苦い胆をなめて、敗北の雪辱を期した話（史記）。

故事成語 Q39. 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「目先の違いにこだわり、結果が同じだと気づかないこと」

ア 鶏口牛後

イ 漱石枕流

ウ 朝三暮四

エ 登高自卑

▶ 答え：ウ この意味を表すのは「朝三暮四（ちょうさんぼし）」。猿に木の実を「朝三つ暮れ四つ」から「朝四つ暮れ三つ」にすると喜んだ話（列子）。

故事成語 Q40. 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「人生の幸不幸は予測できないということ」

ア 呉越同舟

イ 他山の石

ウ 矛盾

エ 塞翁が馬

▶ 答え：エ この意味を表すのは「塞翁が馬（さいおうがうま）」。辺境の老人の馬が逃げたが後に良馬を連れ帰るなど、幸不幸が転じ続けた話（淮南子）。

故事成語 Q41. 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「苦勞して学問にはげみ、その成果を得ること」

ア 螢雪の功

イ 白眉

ウ 温故知新

エ 蛇足

▶ 答え：ア この意味を表すのは「螢雪の功（けいせつのこう）」。貧しくて灯油が買えず、螢の光や雪明かりで書物を読んで学んだ話（晋書）。

故事成語 Q42. 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「よけいな手助けをして、かえって害すること」

ア 登竜門

イ 助長

ウ 呉下の阿蒙

エ 五十歩百歩

▶ 答え：イ この意味を表すのは「助長（じょちょう）」。苗の生長を助けようと引っ張り上げ、枯らしてしまった話（孟子）。

故事成語 **Q43.** 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「古い習慣にこだわり、融通がきかないこと」

ア 虎の威を借る狐

イ 断腸の思い

ウ 守株

エ 漁夫の利

▶ 答え：ウ この意味を表すのは「守株（しゅしゅ）」。切り株にぶつかった兎をまた得ようと、株を見張り続けた話（韓非子）。

故事成語 **Q44.** 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「欠点がなく完全なこと。また、無事にやりとげること」

ア 覆水盆に返らず

イ 天衣無縫

ウ 推敲

エ 完璧

▶ 答え：エ この意味を表すのは「完璧（かんぺき）」。藺相如が、傷一つつけず璧（玉）を趙の国へ持ち帰った話（史記）。

故事成語 **Q45.** 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「失敗すれば後がない、決死の覚悟でのぞむこと」

ア 背水の陣

イ 画竜点睛

ウ 水魚の交わり

エ 杞憂

▶ 答え：ア この意味を表すのは「背水の陣（はいすいのじん）」。韓信が川を背に陣を敷き、退路を断って戦い勝った話（史記）。

故事成語 **Q46.** 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「大きな団体の末端より、小さな団体の長になるほうがよいこと」

ア 漱石枕流

イ 鶏口牛後

ウ 登高自卑

エ 四面楚歌

▶ 答え：イ この意味を表すのは「鶏口牛後（けいこうぎゅうご）」。「鶏口と為るも牛後と為る無かれ」という言葉から（戦国策）。

故事成語 Q47. 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「仲の悪い者同士が同じ場に居合わせる事。また協力すること」

ア 他山の石

イ 矛盾

ウ 呉越同舟

エ 臥薪嘗胆

▶ 答え：ウ この意味を表すのは「呉越同舟（ごえつどうしゅう）」。敵国の呉と越の人が同じ舟に乗り合わせ、嵐では助け合うという話（孫子）。

故事成語 Q48. 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「多くのものの中で、最もすぐれた人や物」

ア 温故知新

イ 蛇足

ウ 朝三暮四

エ 白眉

▶ 答え：エ この意味を表すのは「白眉（はくび）」。馬氏の五兄弟のうち、眉に白毛のある長兄が最も優れていた話（蜀志）。

故事成語 Q49. 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「そこを通れば立身出世できる関門のこと」

ア 登竜門

イ 呉下の阿蒙

ウ 五十歩百歩

エ 塞翁が馬

▶ 答え：ア この意味を表すのは「登竜門（とうりゅうもん）」。黄河の急流「竜門」を登りきった鯉は竜になるといふ言い伝え（後漢書）。

故事成語 Q50. 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「他人の権勢をかさに着て、いばること」

ア 断腸の思い

イ 虎の威を借る狐

ウ 漁夫の利

エ 螢雪の功

▶ 答え：イ この意味を表すのは「虎の威を借る狐（とらのいをかきつね）」。狐が「自分は天帝の使い」と言い、虎を後ろに従えて獣を恐れさせた話（戦国策）。

故事成語 Q51. 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「一度してしまったことは、取り返しがつかないこと」

ア 天衣無縫

イ 推敲

ウ 覆水盆に返らず

エ 助長

▶ 答え：ウ この意味を表すのは「覆水盆に返らず（ふくすいぼんにかえらず）」。離縁した妻が復縁を求めたが、こぼした水は盆に戻らないと断られた話（拾遺記）。

故事成語 Q52. 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「物事を完成させる、最後の大切な仕上げ」

ア 水魚の交わり

イ 杞憂

ウ 守株

エ 画竜点睛

▶ 答え：エ この意味を表すのは「画竜点睛（がりょうてんせい）」。竜の絵にひとみを描き入れると、竜が天に昇ったという話（歴代名画記）。

故事成語 **Q53.** 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「負け惜しみが強く、こじつけて言い逃れること」

ア 漱石枕流

イ 登高自卑

ウ 四面楚歌

エ 完璧

▶ 答え：ア この意味を表すのは「漱石枕流（そうせきちんりゅう）」。「石に漱ぎ流れに枕す」の言い間違いを、強引に弁解した話（晋書）。

故事成語 **Q54.** 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「他人のよくない言動も、自分をみがく助けになること」

ア 矛盾

イ 他山の石

ウ 臥薪嘗胆

エ 背水の陣

▶ 答え：イ この意味を表すのは「他山の石（たざんのいし）」。「他山の石、以て玉を攻（みが）くべし」という詩句から（詩経）。

故事成語 **Q55.** 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「昔のことをよく学んで、新しい知識や見方を得ること」

ア 蛇足

イ 朝三暮四

ウ 温故知新

エ 鶏口牛後

▶ 答え：ウ この意味を表すのは「温故知新（おんこちしん）」。「故きを温ねて新しきを知る」という孔子の言葉から（論語）。

故事成語 **Q56.** 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「いつまでも進歩のない人のこと」

ア 五十歩百歩

イ 塞翁が馬

ウ 呉越同舟

エ 呉下の阿蒙

▶ 答え：エ この意味を表すのは「呉下の阿蒙（ごかのあもう）」。「学問をしない呂蒙を評した語。後に大成し「呉下の阿蒙に非ず」と驚かれた（三国志）」。

故事成語 Q57. 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「はらわたがちぎれるほどの、つらく悲しい思い」

ア 断腸の思い

イ 漁夫の利

ウ 蛍雪の功

エ 白眉

▶ 答え：ア この意味を表すのは「断腸の思い（だんちょうのおもい）」。「子を捕らえられた母猿が、悲しみのあまり腸が切れて死んでいた話（世説新語）」。

故事成語 Q58. 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「技巧のあとがなく自然で完全なこと。飾り気がなく純真なこと」

ア 推敲

イ 天衣無縫

ウ 助長

エ 登竜門

▶ 答え：イ この意味を表すのは「天衣無縫（てんいむほう）」。「天人の衣には縫い目がないという話（靈怪録）」。

故事成語 Q59. 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「離れられない、きわめて親密な交わり」

ア 杞憂

イ 守株

ウ 水魚の交わり

エ 虎の威を借る狐

▶ 答え：ウ この意味を表すのは「水魚の交わり（すいぎよのまじわり）」。劉備が、諸葛亮との関係を「水と魚」にたとえた話（三国志）。

故事成語 Q60. 次の意味を表す故事成語を、ア～エから選べ。意味：「物事は手近で基本的な所から、順を追って進めるべきこと」

ア 四面楚歌

イ 完璧

ウ 覆水盆に返らず

エ 登高自卑

▶ 答え：エ この意味を表すのは「登高自卑（とうこうじひ）」。高い所へ登るにも、必ず低い所から始めるといふ教え（礼記）。

由来 Q61. 「矛盾（むじゅん）」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア どんな盾も貫く矛と、どんな矛も防ぐ盾を売る者が、両者を問われて答えられなかった話

イ 薪の上に寝、苦い胆をなめて、敗北の雪辱を期した話

ウ 韓信が川を背に陣を敷き、退路を断って戦い勝った話

エ 竜の絵にひとみを描き入れると、竜が天に昇ったという話

▶ 答え：ア 「矛盾」の由来。意味は「つじつまが合わないこと」。(韓非子)

由来 Q62. 「蛇足（だそく）」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 猿に木の実を「朝三つ暮れ四つ」から「朝四つ暮れ三つ」にすると喜んだ話

イ 蛇の絵を早く描く競争で、先に描けた者が足まで描き足してかえって負けた話

ウ 「鶏口と為るも牛後と為る無かれ」という言葉から

エ 「石に漱ぎ流れに枕す」の言い間違いを、強引に弁解した話

▶ 答え：イ 「蛇足」の由来。意味は「あっても無駄な、余計な付け足し」。(戦国策)

由来 Q63. 「五十歩百歩（ごじっぽひゃっぽ）」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 辺境の老人の馬が逃げたが後に良馬を連れ帰るなど、幸不幸が転じ続けた話

イ 敵国の呉と越の人が同じ舟に乗り合わせ、嵐では助け合うという話

ウ 戦場で五十歩逃げた者が百歩逃げた者を笑うが、逃げた点では同じだという話

エ 「他山の石、以て玉を攻（みが）くべし」という詩句から

▶ 答え：ウ 「五十歩百歩」の由来。意味は「多少の違いはあっても本質的には同じであること」。(孟子)

由来 Q64. 「漁夫の利（ぎょふのり）」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 貧しくて灯油が買えず、螢の光や雪明かりで書物を読んで学んだ話

イ 馬氏の五兄弟のうち、眉に白毛のある長兄が最も優れていた話

ウ 「故きを温ねて新しきを知る」という孔子の言葉から

エ 鵜（しぎ）と蚌（どぶがい）が争う隙に、漁師が両方とも捕らえた話

▶ 答え：エ 「漁夫の利」の由来。意味は「両者が争う間に、第三者が勞せず利益を得ること」。(戦国策)

由来 Q65. 「推敲（すいこう）」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 詩人が「推す」と「敲く」のどちらの字にするか迷った話

イ 苗の生長を助けようと引っ張り上げ、枯らしてしまった話

ウ 黄河の急流「竜門」を登りきった鯉は竜になるという言い伝え

エ 学問をしない呂蒙を評した語。後に大成し「呉下の阿蒙に非ず」と驚かれた

▶ 答え：ア 「推敲」の由来。意味は「詩や文章の字句を何度も練り直すこと」。(唐詩紀事)

由来 Q66. 「杞憂（きゆう）」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 切り株にぶつかった兎をまた得ようと、株を見張り続けた話

イ 杞の国の人が、天が落ちてこないかと心配した話

ウ 狐が「自分は天帝の使い」と言い、虎を後ろに従えて獣を恐れさせた話

エ 子を捕らえられた母猿が、悲しみのあまり腸が切れて死んでいた話

▶ 答え：イ 「杞憂」の由来。意味は「無用な心配。とりこし苦勞」。(列子)

由来 Q67. 「四面楚歌（しめんそか）」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 藺相如が、傷一つつけず璧（玉）を趙の国へ持ち帰った話

イ 離縁した妻が復縁を求めたが、こぼした水は盆に戻らないと断られた話

ウ 項羽が四方の漢軍から楚の歌を聞き、楚が降ったと悟った話

エ 天人の衣には縫い目がないという話

▶ 答え：ウ 「四面楚歌」の由来。意味は「周囲がすべて敵で、孤立すること」。(史記)

由来 Q68. 「臥薪嘗胆（がしんしょうたん）」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 韓信が川を背に陣を敷き、退路を断って戦い勝った話

イ 竜の絵にひとみを描き入れると、竜が天に昇ったという話

ウ 劉備が、諸葛亮との関係を「水と魚」にたとえた話

エ 薪の上に寝、苦い胆をなめて、敗北の雪辱を期した話

▶ 答え：エ 「臥薪嘗胆」の由来。意味は「目的を遂げるため、長い間つらい苦勞を耐え忍ぶこと」。(史記)

由来 Q69. 「朝三暮四（ちょうさんぼし）」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 猿に木の実を「朝三つ暮れ四つ」から「朝四つ暮れ三つ」にすると喜んだ話

イ 「鶏口と為るも牛後と為る無かれ」という言葉から

ウ 「石に漱ぎ流れに枕す」の言い間違いを、強引に弁解した話

エ 高い所へ登るにも、必ず低い所から始めるという教え

▶ 答え：ア 「朝三暮四」の由来。意味は「目先の違いにこだわり、結果が同じだと気づかないこと」。(列子)

由来 Q70. 「塞翁が馬（さいおうがうま）」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 敵国の呉と越の人が同じ舟に乗り合わせ、嵐では助け合うという話

イ 辺境の老人の馬が逃げたが後に良馬を連れ帰るなど、幸不幸が転じ続けた話

ウ 「他山の石、以て玉を攻（みが）くべし」という詩句から

エ どんな盾も貫く矛と、どんな矛も防ぐ盾を売る者が、両者を問われて答えられなかった話

▶ 答え：イ 「塞翁が馬」の由来。意味は「人生の幸不幸は予測できないということ」。(淮南子)

由来 **Q71.** 「螢雪の功（けいせつのこう）」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 馬氏の五兄弟のうち、眉に白毛のある長兄が最も優れていた話

イ 「故きを温ねて新しきを知る」という孔子の言葉から

ウ 貧しくて灯油が買えず、螢の光や雪明かりで書物を読んで学んだ話

エ 蛇の絵を早く描く競争で、先に描けた者が足まで描き足しかえって負けた話

▶ 答え：ウ 「螢雪の功」の由来。意味は「苦勞して学問にはげみ、その成果を得ること」。(晋書)

由来 **Q72.** 「助長（じょちょう）」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 黄河の急流「竜門」を登りきった鯉は竜になるという言い伝え

イ 学問をしない呂蒙を評した語。後に大成し「呉下の阿蒙に非ず」と驚かれた

ウ 戦場で五十歩逃げた者が百歩逃げた者を笑うが、逃げた点では同じだという話

エ 苗の生長を助けようと引っ張り上げ、枯らしてしまった話

▶ 答え：エ 「助長」の由来。意味は「よけいな手助けをして、かえって害すること」。(孟子)

由来 **Q73.** 「守株（しゅしゅ）」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 切り株にぶつかった兎をまた得ようと、株を見張り続けた話

イ 狐が「自分は天帝の使い」と言い、虎を後ろに従えて獣を恐れさせた話

ウ 子を捕らえられた母猿が、悲しみのあまり腸が切れて死んでいた話

エ 鷓（しぎ）と蚌（どぶがい）が争う際に、漁師が両方とも捕らえた話

▶ 答え：ア 「守株」の由来。意味は「古い習慣にこだわり、融通がきかないこと」。(韓非子)

由来 **Q74.** 「完璧（かんぺき）」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 離縁した妻が復縁を求めたが、こぼした水は盆に戻らないと断られた話

イ 藺相如が、傷一つつけず璧（玉）を趙の国へ持ち帰った話

ウ 天人の衣には縫い目がないという話

エ 詩人が「推す」と「敲く」のどちらの字にするか迷った話

▶ 答え：イ 「完璧」の由来。意味は「欠点がなく完全なこと。また、無事にやりとげること」。(史記)

由来 Q75. 「背水の陣（はいすいのじん）」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 竜の絵にひとみを描き入れると、竜が天に昇ったという話

イ 劉備が、諸葛亮との関係を「水と魚」にたとえた話

ウ 韓信が川を背に陣を敷き、退路を断って戦い勝った話

エ 杞の国の人が、天が落ちてこないかと心配した話

▶ 答え：ウ 「背水の陣」の由来。意味は「失敗すれば後がない、決死の覚悟でのぞむこと」。(史記)

由来 Q76. 「鶏口牛後（けいこうぎゅうご）」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 「石に漱ぎ流れに枕す」の言い間違いを、強引に弁解した話

イ 高い所へ登るにも、必ず低い所から始めるという教え

ウ 項羽が四方の漢軍から楚の歌を聞き、楚が降ったと悟った話

エ 「鶏口と為るも牛後と為る無かれ」という言葉から

▶ 答え：エ 「鶏口牛後」の由来。意味は「大きな団体の末端より、小さな団体の長になるほうがよいこと」。(戦国策)

由来 Q77. 「呉越同舟（ごえつどうしゅう）」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 敵国の呉と越の人が同じ舟に乗り合わせ、嵐では助け合うという話

イ 「他山の石、以て玉を攻（みが）くべし」という詩句から

ウ どんな盾も貫く矛と、どんな矛も防ぐ盾を売る者が、両者を問われて答えられなかった話

エ 薪の上に寝、苦い胆をなめて、敗北の雪辱を期した話

▶ 答え：ア 「呉越同舟」の由来。意味は「仲の悪い者同士が同じ場に居合わせる事。また協力すること」。(孫子)

由来 Q78. 「白眉 (はくび)」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 「故きを温ねて新しきを知る」という孔子の言葉から

イ 馬氏の五兄弟のうち、眉に白毛のある長兄が最も優れていた話

ウ 蛇の絵を早く描く競争で、先に描けた者が足まで描き足しかえって負けた話

エ 猿に木の実を「朝三つ暮れ四つ」から「朝四つ暮れ三つ」にすると喜んだ話

▶ 答え：イ 「白眉」の由来。意味は「多くのものの中で、最もすぐれた人や物」。(蜀志)

由来 Q79. 「登竜門 (とうりゅうもん)」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 学問をしない呂蒙を評した語。後に大成し「呉下の阿蒙に非ず」と驚かれた

イ 戦場で五十歩逃げた者が百歩逃げた者を笑うが、逃げた点では同じだという話

ウ 黄河の急流「竜門」を登りきった鯉は竜になるという言い伝え

エ 辺境の老人の馬が逃げたが後に良馬を連れ帰るなど、幸不幸が転じ続けた話

▶ 答え：ウ 「登竜門」の由来。意味は「そこを通れば立身出世できる関門のこと」。(後漢書)

由来 Q80. 「虎の威を借る狐 (とらのいをかきつね)」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 子を捕らえられた母猿が、悲しみのあまり腸が切れて死んでいた話

イ 鶇 (しぎ) と蚌 (どぶがい) が争う隙に、漁師が両方とも捕らえた話

ウ 貧しくて灯油が買えず、螢の光や雪明かりで書物を読んで学んだ話

エ 狐が「自分は天帝の使い」と言い、虎を後ろに従えて獣を恐れさせた話

▶ 答え：エ 「虎の威を借る狐」の由来。意味は「他人の権勢をかさに着て、いぼること」。(戦国策)

由来 Q81. 「覆水盆に返らず (ふくすいぼんにかえらず)」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 離縁した妻が復縁を求めたが、こぼした水は盆に戻らないと断られた話

イ 天人の衣には縫い目がないという話

ウ 詩人が「推す」と「敲く」のどちらの字にするか迷った話

エ 苗の生長を助けようと引っ張り上げ、枯らしてしまった話

▶ 答え：ア 「覆水盆に返らず」の由来。意味は「一度してしまったことは、取り返しがつかないこと」。(拾遺記)

由来 Q82. 「画竜点睛 (がりょうてんせい)」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 劉備が、諸葛亮との関係を「水と魚」にたとえた話

イ 竜の絵にひとみを描き入れると、竜が天に昇ったという話

ウ 杞の国の人が、天が落ちてこないかと心配した話

エ 切り株にぶつかった兎をまた得ようと、株を見張り続けた話

▶ 答え：イ 「画竜点睛」の由来。意味は「物事を完成させる、最後の大切な仕上げ」。(歴代名画記)

由来 Q83. 「漱石枕流 (そうせきちんりゅう)」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 高い所へ登るにも、必ず低い所から始めるという教え

イ 項羽が四方の漢軍から楚の歌を聞き、楚が降ったと悟った話

ウ 「石に漱ぎ流れに枕す」の言い間違いを、強引に弁解した話

エ 藺相如が、傷一つつけず璧 (玉) を趙の国へ持ち帰った話

▶ 答え：ウ 「漱石枕流」の由来。意味は「負け惜しみが強く、こじつけて言い逃れること」。(晋書)

由来 Q84. 「他山の石 (たざんのいし)」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア どんな盾も貫く矛と、どんな矛も防ぐ盾を売る者が、両者を問われて答えられなかった話

イ 薪の上に寝、苦い胆をなめて、敗北の雪辱を期した話

ウ 韓信が川を背に陣を敷き、退路を断って戦い勝った話

エ 「他山の石、以て玉を攻 (みが) くべし」という詩句から

▶ 答え：エ 「他山の石」の由来。意味は「他人のよくない言動も、自分をみがく助けになること」。(詩経)

由来 Q85. 「温故知新 (おんこちしん)」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 「故きを温ねて新しきを知る」という孔子の言葉から

イ 蛇の絵を早く描く競争で、先に描けた者が足まで描き足してかえって負けた話

ウ 猿に木の実を「朝三つ暮れ四つ」から「朝四つ暮れ三つ」にすると喜んだ話

エ 「鶏口と為るも牛後と為る無かれ」という言葉から

▶ 答え：ア 「温故知新」の由来。意味は「昔のことをよく学んで、新しい知識や見方を得ること」。(論語)

由来 Q86. 「呉下の阿蒙 (ごかのあもう)」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 戦場で五十歩逃げた者が百歩逃げた者を笑うが、逃げた点では同じだという話

イ 学問をしない呂蒙を評した語。後に大成し「呉下の阿蒙に非ず」と驚かれた

ウ 辺境の老人の馬が逃げたが後に良馬を連れ帰るなど、幸不幸が転じ続けた話

エ 敵国の呉と越の人が同じ舟に乗り合わせ、嵐では助け合うという話

▶ 答え：イ 「呉下の阿蒙」の由来。意味は「いつまでも進歩のない人のこと」。(三国志)

由来 Q87. 「断腸の思い (だんちょうのおもい)」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 鵜 (しぎ) と蛙 (どぶがい) が争う隙に、漁師が両方とも捕らえた話

イ 貧しくて灯油が買えず、蛍の光や雪明かりで書物を読んで学んだ話

ウ 子を捕らえられた母猿が、悲しみのあまり腸が切れて死んでいた話

エ 馬氏の五兄弟のうち、眉に白毛のある長兄が最も優れていた話

▶ 答え：ウ 「断腸の思い」の由来。意味は「はらわたがちぎれるほどの、つらく悲しい思い」。(世説新語)

由来 Q88. 「天衣無縫 (てんいむほう)」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 詩人が「推す」と「敲く」のどちらの字にするか迷った話

イ 苗の生長を助けようと引っ張り上げ、枯らしてしまった話

ウ 黄河の急流「竜門」を登りきった鯉は竜になるという言い伝え

エ 天人の衣には縫い目がないという話

▶ 答え：エ 「天衣無縫」の由来。意味は「技巧のあとがなく自然で完全なこと。飾り気がなく純真なこと」。(霊怪録)

由来 Q89. 「水魚の交わり（すいぎよのまじわり）」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 劉備が、諸葛亮との関係を「水と魚」にたとえた話

イ 杞の国の人が、天が落ちてこないかと心配した話

ウ 切り株にぶつかった兎をまた得ようと、株を見張り続けた話

エ 狐が「自分は天帝の使い」と言い、虎を後ろに従えて獣を恐れさせた話

▶ 答え：ア 「水魚の交わり」の由来。意味は「離れられない、きわめて親密な交わり」。(三国志)

由来 Q90. 「登高自卑（とうこうじひ）」のもとになった話として最も適切なものを、ア～エから選べ。

ア 項羽が四方の漢軍から楚の歌を聞き、楚が降ったと悟った話

イ 高い所へ登るにも、必ず低い所から始めるという教え

ウ 藺相如が、傷一つつけず璧（玉）を趙の国へ持ち帰った話

エ 離縁した妻が復縁を求めたが、こぼした水は盆に戻らないと断られた話

▶ 答え：イ 「登高自卑」の由来。意味は「物事は手近で基本的な所から、順を追って進めるべきこと」。(礼記)

出典 Q91. 「矛盾（むじゅん）」の出典（もとになった書物）として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 三国志

イ 唐詩紀事

ウ 韓非子

エ 戦国策

▶ 答え：ウ 「矛盾」の出典は韓非子。意味は「つじつまが合わないこと」。

出典 Q92. 「蛇足（だそく）」の出典（もともなった書物）として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 世説新語

イ 孟子

ウ 晋書

エ 戦国策

▶ 答え：エ 「蛇足」の出典は戦国策。意味は「あっても無駄な、余計な付け足し」。

出典 Q93. 「五十歩百歩（ごじっぽひゃっぽ）」の出典（もともなった書物）として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 孟子

イ 列子

ウ 後漢書

エ 歴代名画記

▶ 答え：ア 「五十歩百歩」の出典は孟子。意味は「多少の違いはあっても本質的には同じであること」。

出典 Q94. 「漁夫の利（ぎよふのり）」の出典（もともなった書物）として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 史記

イ 戦国策

ウ 後漢書

エ 淮南子

▶ 答え：イ 「漁夫の利」の出典は戦国策。意味は「両者が争う間に、第三者が労せず利益を得ること」。

出典 Q95. 「推敲（すいこう）」の出典（もともなった書物）として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 孟子

イ 拾遺記

ウ 唐詩紀事

エ 礼記

▶ 答え：ウ 「推敲」の出典は唐詩紀事。意味は「詩や文章の字句を何度も練り直すこと」。

出典 Q96. 「杞憂（きゆう）」の出典（もともなった書物）として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 孫子

イ 晋書

ウ 蜀志

エ 列子

▶ 答え：エ 「杞憂」の出典は列子。意味は「無用な心配。とりこし苦勞」。

出典 Q97. 「四面楚歌（しめんそか）」の出典（もともなった書物）として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 史記

イ 後漢書

ウ 歴代名画記

エ 詩経

▶ 答え：ア 「四面楚歌」の出典は史記。意味は「周囲がすべて敵で、孤立すること」。

出典 Q98. 「臥薪嘗胆（がしんしょうたん）」の出典（もともなった書物）として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 戦国策

イ 史記

ウ 淮南子

エ 論語

▶ 答え：イ 「臥薪嘗胆」の出典は史記。意味は「目的を遂げるため、長い間つらい苦勞を耐え忍ぶこと」。

出典 Q99. 「朝三暮四 (ちょうさんぼし)」の出典 (もとになった書物) として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 拾遺記

イ 礼記

ウ 列子

エ 霊怪録

▶ 答え：ウ 「朝三暮四」の出典は列子。意味は「目先の違いにこだわり、結果が同じだと気づかないこと」。

出典 Q100. 「塞翁が馬 (さいおうがうま)」の出典 (もとになった書物) として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 拾遺記

イ 蜀志

ウ 韓非子

エ 淮南子

▶ 答え：エ 「塞翁が馬」の出典は淮南子。意味は「人生の幸不幸は予測できないということ」。